

## 閉塞性動脈硬化症手術説明書

### 1. 病名、病状

閉塞性動脈硬化症

### 2. 手術名とその内容

血管内治療 (EVT)

狭窄、閉塞している血管に対してバルーン（風船）やステント（金属の網状筒）を用いて開大させて血行を良くする治療です。

### 3. 麻酔方法：局所麻酔

### 4. 手術の必要性と手術しないときの経過

下肢動脈が狭窄しており、病変部を開大させないと下肢に十分な血流を供給することができず、いずれ現在の症状が悪化する可能性があります。最悪の場合は下肢切断に陥ることもあります。

### 5. 他の方法との比較、その利点と危険性

薬物療法：薬物治療は、動脈狭窄の進展を抑止することはできますが直接動脈閉塞や狭窄を改善させる作用はありません。

バイパス術：バイパス術は、EVTに比べ長期開存率は優れていますが、全身麻酔を必要とするなど体への負担が大きいことが欠点です。

### 6. 手術自体の危険性および考えられる合併症

手術合併症が起こる可能性は3～5%です。

合併症は、出血、穿刺部血腫、動脈解離、動脈血栓症、末梢塞栓症、血管破裂があり合併症出現時には、適時適切な追加処置をさせていただきます。（輸血や外科的緊急手術になることもあります）

### 7. 予後及び考えられる後遺症

EVT初期成績は90%以上で、5年開存率は50～90%です。（ただし、病変血管管径にて異なります）

### 8. 通常発症しないが起こり得る重大な危険性

感染、ショック、造影剤アレルギー

腎臓が悪い方は腎臓の機能が一時的に悪化を認めることがあります。場合によっては人工透析もありえます。

### 9. その他

結果は、治療成績として公表される事がありますが、個人情報は一切公表されません。

医療機器の適正使用のため医療機器関係の業者が治療に立ち合う場合があります。